

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570102814		
法人名	社会福祉法人 みその		
事業所名	みそのホーム・グループホーム		
所在地	秋田市寺内蛭根2丁目6－34		
自己評価作成日	令和3年5月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和3年6月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成31年より認知症カフェ(みそのカフェ)を開催している。コロナウイルスのため現在は休止中。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「感謝、喜び、安心」をホームの理念とし、開設当初よりカトリック精神に基づいた支援を行っている。数年前に新築された施設は設備が整っており、またデイサービスや小規模多機能型居宅介護事業所が併設していることから、相互に協力し合いながら事業にあたっている。グループホーム専従の看護師が勤務しており、利用者の看取りについても取り組み、利用者・家族の思いに寄り添った支援となるよう努めている。新型コロナウイルスの影響が大きく、平成31年より取り組んでいる「認知症カフェ」は現在一時的に中断しているが、そうした影響の中でも利用者の思いに寄り添い、日中活動の充実や外出支援に積極的に取り組んでいる様子がみられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム玄関に掲示し 感謝・喜び・安心という理念のもと職員が共有している。	感謝・喜び・安心を理念に、家庭的で安心した生活が送ることができるよう支援している。 キリスト教の精神に基づき、お祈りや讃美歌を日常生活に取り入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物はおもに近隣に行っている。 小中高大の校外学習や実習は中止となっている。	地域の小学校で行われる七夕まつりへの参加や、近隣スーパーへの買い物などで地域との交流を図っている。コロナ禍のため現在は中止しているが、それ以前は小中学校の校外学習や、大学生の実習なども積極的に受入れ、地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	学生の実習は中止となってしまった。 地域の方々には運営推進会議を活用している。 今年は資料配布のみ。個別に訪問し資料を見てもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催していたがコロナウイルスのため資料の配布のみになっている	新型コロナウイルスの影響により、現在は書面での開催としている。書面については職員が直接委員宅を周り手渡し、その際に委員からの意見を貰っている。	意見書を同封するなどして、書面報告に対する意見を積極的に求め、ホームの運営に反映させるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方に運営推進委員会の資料をお配りしている	運営推進会議により、地域包括支援センターとの定期的な情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し3か月に一回研修か委員会を開催している	身体拘束防止にかかるマニュアルを設定するとともに適正化委員会を定期的に開催している。委員会で取り上げた内容は職員へ周知するとともに、研修を通して意識の向上を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会と関連つけて考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加するよう心掛けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書、重要事項説明を十分に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会を活用していたが中止。毎月のお便り発行時管理者の携帯番号を記載し実際に連絡を頂いている	意見箱を設置したが、思うように家族からの意見がなかったため、毎月のお便りに管理者自身の顔写真と電話番号を記載し、意見・要望を直接頂くこととした。既に数件の意見が寄せられており、効果的な取り組みとなっていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを開催しノートに意見を書き入れ職員から意見をもらっている	業務における疑問や支援に関する提言など、職員が日々感じていることを「カンファレンスノート」に記載してもらい、随時管理者がチェックしながら業務の改善に努めている。記載内容は多岐にわたっており、活発な意見交換が確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部より給与の見直し、冬期休暇と夏季休暇を昨年から実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加してもらうよう声掛けしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市ケアパートナーズに加盟している。秋田県の連絡協議会にも加盟し管理者の方々から協力頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は事前訪問を行いご本人ご家族のご要望を聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の際に要望を聞いている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみ、食器拭き等日常生活で行う事を支援する		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの状況により面会中止していたが現在は窓越しの面会を行っている(短時間)		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブのさい本人の行きたいところなど又馴染みの場所へ行くこともある。	入居前の自宅を訪問したり、馴染みの散髪屋を利用したりと利用者の想いに寄り添った支援を行っている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	移動時廊下などで会うさい声を掛け合う場面がある		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は残念ながら関係性をもてていない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族より意向を聞き介護計画に活かしている	夜勤時など、利用者と個別に会話する機会を設け、本人の意向の把握に努めている。外出の要望が多く、買い物や花見、ドライブ等可能な限り対応している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より生活歴を聞きカンファレンスにいかしている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のカンファレンスにて情報共有している		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスを行っている	家族とは通院時等定期的に顔を合わせることから、随時支援についての要望を確認している。職員間の意見はカンファレンスノート及びケア会議等を通じて細かく共有されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノートカンファレンスにて情報共有している		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のクリニックがかかりつけ医となっている (ほいずみ内科クリニック)		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在はほいずみ内科クリニック、やばせ薬局 旭北歯科(往診対応)してもらっている。かん眼科や泉皮膚科も往診対応してもらっていた	通院は家族の付添を原則としているが、必要に応じて職員でも対応している。歯科通院や看取り対応では往診でも対応してもらっているとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師が在籍しているため連携がとれている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談室、相談員と連携をとり連絡をとっている。退院時は居室を空けすぐに対応できるようにする		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホーム開設時より看取りを実施している	重度化した際の指針を定め、開設時より看取りを行い、家族や本人の要望に添った支援を行っている。看取りの実施には医療協力体制が欠かせないが、専従の看護師を配置し、また近隣病院からの往診により、最期までホームでの生活を継続できるよう体制を整えている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡時や対応など事務所に張り出し対応している		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は小規模多機能マリアの家と合同で行っている	年間の防災計画に基づき、月ごとに避難訓練や防災機器の操作、備蓄品の管理等について検討している。施設には広い駐車場が設けられており、災害時には地域住民の待機所として使用することとして町内会と協定を結んでいる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉遣いには気を付けている	施設内の研修の中に接遇に係る項目を設けるなどして定期的に利用者への対応方法、プライバシーの配慮について学ぶ機会を取り入れている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや本人の希望、ご家族より情報を得ている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせたり本人の希望を優先している		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事、誕生日、外出時など好みの洋服を着て頂くよう支援している		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯、みそ汁は本人より盛って頂いている	食事は施設内にある給食施設から毎食ホームに届けられ、温かな食事が提供されている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量チェックして必要量を把握している		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア毎日3食後行い、入れ歯洗浄週2回 4月まで歯科往診1名いた		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表作成、自立できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、水分補給量、排泄時間、排泄パターンなどの把握に努めている。確認した状況は利用者毎に集計され、本人のケース記録に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳提供している。水分補給多めに摂って頂くようにしている		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、一日2～3名で入浴対応している	一人ずつゆっくりと入浴できるよう、1日に2～3名ずつ入浴している。夏場には必要に応じてシャワー浴等も行い、清潔保持に努めている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動したり、お昼寝をとり安眠して頂けるよう支援している		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬のファイル、薬についての疑問は薬剤師に確認している		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ制作貼り絵折り紙などその人の得意なものなどを行ってもらっている		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブは実施している。本人に行きたい場所をきいている。地域の方々の支援はなかなかつなげられていない	近くにはスーパーがあり、またコンビニエンスストアは施設に隣接していることから、買物外出することが多い。外出の要望には出来るだけ応えるよう配慮しながら気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お1人、預かり金のある方はいるが使いしすぎるためご家族と連絡を取り合い管理している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いたさい、お礼の電話を本人からしている。手紙を書ける方は近況を書いている		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	芳香剤をトイレと居室に置いている。各場所に花を置いて季節感を採り入れている	共用空間は落ちついた雰囲気となっており、意識的に花を飾るなど家庭的な雰囲気づくりがなされていた。利用者は皆外出着のようなカラフルな服装でにこやかに寛いでいる姿が印象的であった。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き自由に座ってもらっている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物、テレビ、写真を置き居心地の良い空間作りをしている	床はフローリングとなっており、洗面所、クローゼット、タンス、電動ベッドが備え付けられている。建物自体が新しく、清潔感のある居室となっている。利用に際し持ち込み制限はなく、思い思いの品を持ち込むことができる。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が自立した生活を送るよう見守りしている		